

平成 26 年

雲南市議会 3 月定例会
会派代表質問通告一覧表

【会派代表質問日程 平成 26 年 3 月 5 日】

平成26年雲南市議会3月定例会 会派代表質問通告一覧表 目次

順番	日程	会派名	質問者		質問方式	ページ
			議席番号	氏名		
1	3/5(水) 9時30分～	フォーラム志民	14	福島光浩	一括	1,2
2		清風雲南	20	小林眞二	一括	3～5

質問 順位	会 派 名 質 問 者 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
		<p>2. 持続可能な行政 経営について</p> <p>3. 教育行政について</p>	<p>連携に対する方針と取り組み内容について伺う。</p> <p>(1) 職員数の削減による人件費の圧縮をはじめとする行財政改革が求められている。新庁舎建設とあわせ、効率的・効果的な事業の推進に向けた体制構築を検討されているが、取り組み状況について伺う。</p> <p>(2) 行財政改革大綱に基づく実施計画の進捗状況と課題（未達成項目）について伺う。</p> <p>(3) 実施計画（平成 26 年度～平成 30 年度）及び中長期財政計画が示された。前実施計画に対し大幅増となっているが、主な要因と将来の収支不足に与える影響を伺う。</p> <p>(1) 合併後 10 年間の歩みを振り返って、これまでの成果と課題、また今後の取り組み方針について伺う。</p> <p>(2) 第 3 次教育基本計画策定に向けた取り組み方針について伺う。</p> <p>(3) 教育環境としての大きな問題に、幼児教育施設への入所・入園におけるニーズの偏りと、学校適正規模適正配置があげられる。早急な対策、対応が求められるが、平成 26 度の取り組み方針について伺う。</p>	<p>市長</p> <p>教育長</p>

質問 順位	会 派 名 質 問 者 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
2	清 風 雲 南 20番 小林眞二 (一 括)	<p>1.合併 10 年を迎えて</p> <p>2.雲南市での「成長戦略」について</p> <p>3.国・県の予算について</p> <p>4.平成 26 年度当初予算について</p> <p>5.観光振興について</p>	<p>(1)「生命と神話が息づく新しい日本のふるさとづくり」の実現に努力を重ねてこられたが、これまで合併前の 6 町村においては、それぞれ地域の特色を生かし、また、それぞれが競い合う形でのまちづくりが進められてきた。合併後、それぞれの地域の特色を生かしつつ、一体感をもった行政運営も併せて求められている。この 10 年を振り返り、市長の行政運営における取り組みはどのように評価しているのか。</p> <p>(1)政府は、現在 3 本目の矢「成長戦略」で日本の景気を加速させようとしている。地方にも独自の「成長戦略」を立てる必要があると思う。そのためには、どのような対策が必要と思われるのか。また、1 年経ったアベノミクスの評価について問う。</p> <p>(1)国会では、平成 25 年度補正予算 5 兆 4,654 億円が、2 月 26 日成立した。一方、島根県において、平成 26 年度一般会計予算（案）は、5,272 億 3,400 万円で、地域経済の底上げを狙う考えだ。その中身は、大きく県内自治体にも影響するものであるが、本市においての影響について問う。</p> <p>(1)当初予算について、市長はどこに重点をおかれ、どのような思いを持って編成されたのか。また、自主財源確保や財政見通しについて問う。</p> <p>(1)200 万人台であった出雲大社周辺の観光客は、大遷宮効果で平成 25 年度には 804 万人。波及効果で、松江市の観光施設入り込み客を含め、県東部で初めて 1,000 万人を超えたとのことである。隣接市での大イベントを、戦略的に最大限活用したと思われるのか。また、雲南市観光施設に入り込み客増への努力はなされたのか問う。</p>	<p>市長</p> <p>市長</p> <p>市長</p> <p>市長</p> <p>市長</p>

質問 順位	会 派 名 質 問 者 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
		6.農政について	<p>(2)県は定着し始めた「縁結び」や「神々の国」など、島根県のブランドイメージを広げる戦略を描き、首都圏への話題提供に力を注ぐ意気込みでいるが、雲南市においてもより効果的な観光対策を考える必要があるのではないか。所見を問う。</p> <p>(1)「猫の目農政」と揶揄される戦後、揺れ続けてきた農業政策は、ここにきてコメの生産調整（減反）を廃止するなど、政策の転換を決めた。農家は、半世紀近く続いた農政に戸惑い、先が見通せない環境であるが、雲南市での農業の現状と課題、農業後継者問題などを含め、今後の対策について問う。</p>	市長
		7.原発問題について	<p>(1)2月7日の報道によると、広域避難計画において、住民が30キロ圏内から逃れるのに必要な推計時間を今年度中にまとめるとのことであるが、その後の広域避難への取り組みについて問う。</p> <p>(2)今後、島根原発2号機の再稼働手続きは進み、雲南市にも稼働の是非が問われることも考えられる。現状での見解を問う。</p>	市長
		8.雲南市立病院について	<p>(1)雲南市立病院は、雲南医療圏の中核病院として重要な役割を果たしている。更に充実した病院整備を進めるため、平成26年度には、基本設計に基づき実施設計を行い、平成27年度工事着手、平成28年度末には新病棟開院に向け取り組まれている。従って、今後は、新病棟に合う医師・看護師の確保が重要だ。完成まで3年余り、積極的な人材確保に取り組まねばならないと考えるが、見解を問う。</p>	市長

質問 順位	会 派 名 質 問 者 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
		9.教育について	<p>(1)文科省は、2016年度（平成28年度）に学習指導要領を全面改定する方針で、特に国際的に活躍が出来る人材の教育を目指し、英語教育を充実させるとしている。現状での学習時間や教育現場での課題・問題はないのか見解を問う。</p> <p>(2)社会構造の変化により、学校での一層の道德教育の徹底と、家庭との連携が必要と考える。教育再生が叫ばれる中、文科省では道德教育の教科化を検討しているとのことだが、教育長の所見を問う。</p>	教育長
		10.教育委員会制度 改革について	<p>(1)教育委員会は、戦後、首長が教育行政の事務を担ったことが、軍国主義教育を招いたとの批判を受け、1948年（昭和21年）、教育行政に民意を反映する目的で導入された。現在、教職員出身者や自治体職員から選ばれることが多く、委員も非常勤で会議も少なく、教育委員会の形骸化、あるいは「権限と責任の所在」について指摘され議論がされている。</p> <p>政府が進める改革案は、教育長と教育委員長ポストを統合して「代表教育委員」（仮称）を新設し、首長の権限を強化する内容である。市長は、教育委員会のあるべき姿、あるいは方向性について、どのような見解なのか問う。</p>	市長